

## ビスフォスフォネート製剤またはデノスマブの投与を受けている方への

### 歯科診療および口腔（くう）外科手術に関する説明書

ビスフォスフォネート（BP）製剤またはデノスマブと呼ばれる薬には、顎の骨が腐ってしまうという副作用がまれに出現します。この現象を顎骨壊死（がっこつえし）と言い、これらの薬が投与されている方にいったん顎骨壊死がおこった場合、それを治すことは現在の治療では難しく、顎骨切除の手術をして治すこともあります。

これらの薬は骨粗鬆症の骨折予防やがんの骨転移予防などに使用されます。発生頻度は、骨粗鬆症の薬で3000人に1人程度、がん骨転移予防の薬で10人に1人程度です。また、ステロイド薬併用、糖尿病、喫煙、飲酒、口腔内不衛生、がん化学療法、顎骨への放射線治療などによっても発生率が上昇すると言われていています。

顎骨壊死の初めの症状は様々で、顎の骨が露出したり、顎の下の皮膚が腫れたり、歯と関係のない歯ぐきが腫れて膿が出たりします。痛みが出ることもありますが、全くないこともあり、気づくのが遅れることがあります。抜歯を受けた時に顎骨壊死が発症することもしばしば報告されています。口腔内の清掃状態が悪い場合に発症する確率が高いと言われ、現在日本口腔外科学会のガイドラインでは、BP剤投与開始前の口腔ケアの徹底と投与中の歯科医院での口腔管理を推奨しています。抜歯の前に必ずしも休薬する必要はありませんが、難抜歯や顎の骨の手術の際には、内服薬を4年以上投与されている場合において、2か月休薬してから施術することもあります。休薬しても顎骨壊死の危険性が全くなくなるわけではありませんが、発生率は少なくなります。抜歯しなければよいと思われるかもしれませんが、抜歯を必要とする歯を放置することは全身に悪影響を及ぼしたり、それ自身が不衛生で顎骨壊死の原因となってしまいます。

BP製剤やデノスマブは骨折など骨に関連した合併症を減らしてくれる大変優れたお薬で、お医者さんはデメリットよりメリットの方が大きいと判断した場合に薬を投与しています。顎骨壊死を恐れて勝手に中止することはせず、ご不安な場合は投与している医師とよく相談してください。休薬については医師と歯科医師が連絡をとった上で休薬を指示しますので、勝手に休薬しないようにしましょう。不安があるときには、歯科医師から説明をよく聞き納得した上で、抜歯や顎の骨の手術を受けましょう。

\_\_\_\_\_ 歯科医院

歯科医師： \_\_\_\_\_